講義名	キャリア実践論(アジアビジネス)					授業形態	
担当教員	辻　周吾	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 ３時限				
		単位数	2	履修開始年次	３年生	ナンバリング・コード	CAR320

主題と概要

本講義は、日本での就職を目指す留学生が、日本企業に関して現実的な理解を得ることを目的に行います。具体的には、日本企業のビジネスパーソンとの意見交換を通して、自身のキャリア実現に必要な知識やマインド、スキルを学びます。同時に、進路の可能性を広げるための自己理解を深めます。

到達目標

１．日本企業の現状と課題、企業人の仕事観やキャリア観、留学生への期待等が理解できる。
２．企業内外の多様なキャリアを学ぶことで、自身の将来の職務イメージ・可能性を拡大できる。
３．自身の活躍領域の手掛かりを得る「意志（Will）、強み（Can）、価値観（Must）」が理解できる。

提出課題

毎回の授業で、小課題、またその他「キャリア実践論」に関するテーマのレポートを課します。
また、「キャリア実践論」に関するテーマの中間レポートと、期末レポートを課します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

レポートや小課題について、授業中にフィードバックします。

評価の基準

レポートと授業中に提出する小課題、意見交換への参画、発表等で総合的に評価します。

履修にあたっての注意・助言他

・本学の「アジアビジネス人材育成プログラム」の留学生を、受講の対象としています。
・毎回、出欠をとります。
・１５分以上の遅刻は、欠席とみなします。
・授業には、辞書を持って来てください。

教科書

参考図書

.大学のムコウ.	小樽商大キャリア教育開発チーム+キャリアバンク	日本経済評論社	1980	9784818819481
.働き方の哲学 360度の視点で仕事を考える.	村山昇	ディスカヴァー	2860	9784799322383
.企業経営の教科書.	遠藤功	日本経済新聞社	1100	9784532114312

その他

毎回の授業で、プリントや資料を配布します。

授業計画

1. オリエンテーション　授業の進め方、留学生と日本企業の抱える課題
2. 自己理解を深める①　人生の転機と成長機会の棚卸、開示、フィードバック
3. 企業理解を深める①　日本企業で求められる人材像、「社会人基礎力」
4. 長期視点に立った就職活動　日本企業就職の常識、キャリア構築を意識した就職活動
5. 自己理解を深める②　自己診断の実施、「ジョハリの窓」・フィードバック
6. キャリア形成に関する事例研究①　「偶然の出会いを生かす」
7. キャリア形成に関する事例研究②　「メンターとネットワーク」
8. キャリア形成に関する事例研究③　「ベストよりベターの意思決定」
9. 企業理解を深める②　大企業と中小企業、職種・業界、先輩の就職先、経営状況把握手段
10. 自己理解を深める③　「私のWill Can Must」素案作成、開示、フィードバック
11. 企業人のキャリアの転機と成長①　仕事観・キャリア観等の意見交換
12. 企業人のキャリアの転機と成長②　仕事観・キャリア観等の意見交換
13. 企業人のキャリアの転機と成長③　仕事観・キャリア観等の意見交換
14. 自己理解を深める④　「私のWill Can Must」素案修正、開示、フィードバック
15. まとめ　キャリア形成に関わる疑問点解消、インターンシップ参加のすすめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
○	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・事前に配布する資料の内容を確認する。その際に、分からない語彙や文法は調べる…各授業２時間程度
・授業の内容を整理する。その際に、覚えた語彙や文法は確認し習得する…各授業２時間程度

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

・経営課題の克服に試行錯誤を続ける日本の企業人の取り組みを知ることにより、「ネアカ のびのび へこたれず」の精神をもった人材を育成する。
・日本企業で働く人々が持つ多様な仕事観やキャリア観を学ぶことにより、世界や日本の企業で創造力を豊かにし、仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材を育成する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

キャリアをテーマにした、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどを行います。学生同士、また教員・企業人と学生間で意見を交わす機会を設けます。

実務経験の有無及び活用

全１５回の授業の中で、実務経験を有する講師（ゲスト）をお呼びします。

備考